

○ 本校の概要

児童数170名、6学級、教員数14名、サポートルーム拠点校(巡回指導教員3名)、SC1名、事務1名、栄養士1名、時間講師3名(少人数指導2名、2・3年次研1名)、学習指導講師1名、特別支援員4名、副校長補佐1名、読書学習司書1名
 校内研究 研究主題「運動する楽しさを味わい、進んで友達とかかわり合う児童の育成」 副主題「ゲーム・ボール運動の学習を通して」

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	◎これまでの取組 ☆今後の改善策	学校関係者記入欄 コメント
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	①学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 ②算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 ③学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 ④外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 ⑤授業改善推進プランを、授業に生かす。 ⑥大森東小「学習のきまり」について、児童に徹底するために繰り返し指導する。	国社算理(1,2年は国算)のワークテスト「知識・理解」の正答率が8割を超えた割合 4:80%以上 3:70%以上 2:60%以上 1:50%以上	3	◎「学習カルテ」は、大田区学習効果測定の結果を受け、児童の課題が明らかになるように指導し、作成した。また、「算数ステップ学習」では、単元ごとの習熟度を明らかにし、指導の重点を絞って効果的な指導につなげるようにしてきた。さらに、放課後や土曜日、夏休みに補習を実施し、学習指導講師を活用するなど複数名の教員が、算数の学習を中心に個別指導の必要な児童の学力向上に努めてきた。 ☆今後は、これらの取組を通して、さらに指導の重点項目を絞り、基礎的・基本的な学習事項の確実な定着を図っていくことで、学力の向上を図る。また、学力を支える学習環境のさらなる充実を図るために、「大森東小 学習のきまり」をあらゆる場面で徹底するようにしていく。	・児童数に対して教員数が多いとは言えないが、講師の方々や連携してのステップアップは望めると思う。 ・資料から学校が取り組んでいることがよく分かる。 ・目標に設定している「一人ひとりの学ぶ意欲を高め」については、どのような取り組みがなされたのか。
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	①小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 ②道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 ③学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 ④学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 ⑤問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	①児童アンケート「学校やクラスのきまりを守っている」と回答した子供の割合 ②保護者アンケート「先生は子供の悩みや相談を受け止め解決しようとしている」と回答した保護者の割合 4:①②とも90%以上 3:①②とも80%以上 2:①②とも70%以上 1:①②とも60%以上	2	◎発表や表彰など、活躍の場や認められる機会を作るようにし、成功体験を増やして自信に繋がるようにしてきた。学校の中に居場所があり、誰でもいつでも助けてもらえるという安心感をもてるようにした。 「小中一貫」では、大森東中学校区4校(大森中、大一小、中富小、大東小)が連携し、地区の教育課題を共有し、児童・生徒の健全育成に努めている。特に、中学進学前の6年生に関する生活指導上の留意点について、確実な情報交換を行った。 「道徳」の研修は今年度1回行い、道徳教科化の取組について共有理解を図ることができた。「いじめ・不登校対策委員会」を今年度新たに発足させ、ケース会議を行っていくことにした。 ☆「道徳」の研修については、学期1回、年間3回できるように、校内で時間を設定して行うようにする。 児童・保護者が相談しやすい環境・体制づくりとして、スクールカウンセラーの活用を促進していく。また、必要に応じて、「いじめ・不登校対策委員会」を行い、今後もいじめや不登校の未然防止に努めていく。 学校のきまりについて朝会の話題で取り上げたり、掲示物を工夫したりして、教職員と児童とが日常的にきまりを意識できるようにする。また、きまりの内容について家庭にも周知し、協力を呼び掛ける。	・「豊かな心を育む」のテーマについては、日々の大人のかかわりも大事かと思う。今後も側面からの応援をしていければと感じる。 ・成功体験を積み上げることは、まさに自信につながることであり、その点をどう成果指標に取り入れていくか工夫してはどうか。 ・団地という特殊性もあるが、近隣との交流等が少なくないと思う。子供同士も仲良く遊んでいる姿が少ないように思う。 ・自己評価は「3」でもよいのではないか。
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	①新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。 ②「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 ③給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。 ④体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	保護者アンケート「学校は体力を付けるための工夫をしている」と回答した保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	3	◎「一校一取組」、「一学級一実践」として、短なわとび、長なわとび、5分間走を行い、学校全体で体力向上に取り組んできた。また、体育朝会などの機会を通して児童が楽しく運動する活動を全校で行っており、児童の運動に対する関心は高まっている。 年間2回の「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組では、チェックシートを活用し、家庭への啓発を行った。 ☆体力向上に関して、努力した児童への表彰を行い、児童が自発的に運動に取り組むような活動を行っていく。 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組について、学校説明会や学校だより等の通知文を通じて、さらに充実した取組になるよう保護者に周知していく。	・児童の朝の顔が元気になったように思う。 ・体力向上は、貴校での今年度の研究テーマであると思うので、保護者からの情意的なアンケートのみではなく、客観的なデータに基づく指標があるといい。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	①授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 ②授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 ③各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 ④学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 ⑤校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	保護者アンケート「先生は学力を付けさせるための指導を工夫している」と回答した保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:60%以上	3	◎授業公開日には、学校アンケートを保護者・地域に配布、回収した。回収したアンケートは、全教職員が閲覧できるように回覧し、授業改善につながる視点を共有し、助言し合うように努めた。また、研修会や研究会で学んだことは、自身の授業改善に生かすと共に、レポート等を作成して回覧するなど、他の教員への周知啓発に努めた。 ICT機器を活用し、児童が意欲的に学習に取り組む工夫を全学級で行った。特に、電子黒板やタブレットパソコンを使った授業づくりが増えてきた。また、ICTサポーターを活用した授業や教員向け研修会を行い、効果的なICT機器の使用法について研鑽を行った。 ☆校内委員会を年間計画の中に位置付け、定期的な情報交換を行うとともに、必要に応じて臨時の委員会を開き、児童の対応について共通理解を図っていく。また、特別支援教育への理解を深めるための教員研修を行い、多様な視点から児童を見とれるようにしていく。 ICTのさらなる活用を進めるための教員研修を企画する。	・校内研修は大変熱心に取り組まれていると思う。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにし、連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	①教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 ②地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 ③学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	①保護者アンケート「学校は地域の力を子供たちの教育活動に活かしている」と回答した保護者の割合 ②保護者アンケート「学校からの情報を分かりやすく伝えている」と回答した保護者の割合 4:①②とも90%以上 3:①②とも80%以上 2:①②とも70%以上 1:①②とも60%以上	3	◎大田区学校ホームページのリニューアルに伴い本校ホームページの内容を整理しながら更新を行ってきた。また、「学校だより」や「東っ子タイムズ」を発行し、学校の教育活動の取組や児童の様子を地域や保護者に知らせた。 「学校地域支援本部」と連携し、サマースクールの講座の充実を図り、地域とともに子供を育てる取組を継続している。また、家庭科のミシン補助やケナフ栽培指導など、地域の人材活用を地域支援本部と連携して行うことで、地域力を生かした教育活動を実施してきた。 ☆ホームページは、定期的に更新できる項目を増やし、学校の教育活動が地域や保護者に伝わる内容にし、積極的に情報を発信していく。 地域の特性を生かすために、総合的な学習の時間の活動内容を学年に合わせて精査し、さらに地域と連携した活動を行っていく。 家庭との連携につながる講演会や地域や保護者の学校参加型行事の機会を増やし、学校・家庭・地域が一緒になって児童理解を深めていく。	・成果が見られる。父兄同士の話し合いをもち、相互の理解を深め、情報を共有できたらと考える。 ・もう少し高い成果評価「4」がついてもいいと思う。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す